

炎上を引き起こす SNS 環境と現代的な若者の心理

高橋 明梨 (嶋根ゼミ)

論文の目次

序章

第 1 章 SNS の普及と炎上のメカニズム

1-1 問題の背景—SNS の普及—

1-2 炎上とは

1-3 炎上のプロセス

1-4 インターネット上における意見の先鋭化

第 2 章 他者を叩く心理

2-1 炎上参加者の特徴

2-2 「人の不幸は蜜の味」

2-3 自己のアノミー化によって発生する加害—被害の関係

第 3 章 SNS 投稿における承認への渴望

3-1 承認欲求

3-2 SNS における承認欲求

3-3 ゴッフマン的視点から見た SNS の印象操作

3-4 承認の供給不足

3-5 SNS トラブルの軽視

第 4 章 SNS 投稿のリスク

4-1 意図せぬ公人化

4-2 行き過ぎた制裁

4-3 誹謗中傷行為に対する法的処置

結論

序章

インターネットの普及により私たちは SNS を手に入れ、より自由に、より広い世界へ情報を発信できるようになった。その一方で、SNS トラブルは絶えない現状にある。「炎上」は誰もが巻き込まれる可能性があるが、その代償は大きくその後の人生狂わせる可能性がある。SNS 炎上を、一部の愚かな人間による特別な問題ではなく、深刻な社会全体の問題として捉える必要

があると著者は考える。

本論文では、なぜ SNS による炎上トラブルがなくなるのか、若者に焦点を当て、インターネットの特性と SNS コミュニティにおける人間の心理の 2 つの軸から考察していく。

1 SNS の普及と炎上のメカニズム

炎上の定義は SNS の普及とともに広義的になった。そして何がきっかけで炎上するか分からないような混沌状態である。その要因として先行研究では「サイバーカスケード」や「エコーチェンバー」にあると指摘されてきた（荻上 2007、山口 2020 など）。インターネット上においてサイバーカスケードと呼ばれる集団極性化が起きやすい。それは、集団で討議をすると意見が極端な方向に偏りやすいという人間が元来持っている特徴と、エコーチェンバーやフィルターバブル、ハッシュタグアクティビズムなどのインターネットでの特徴が相互作用的に働き、SNS 上で見られる過激な批判へと繋がるのである。

2 他者を叩く心理

人を叩いてしまう要因は、前節で述べたインターネットの集団心理に加え、人間の脳に備わっている生来的な仕組みにもある。

人間には自己の正義感に基づき他者を攻撃することで快感を得る傾向がある（中野 2020）。またその結果、他者が不幸に陥ることに喜びも感じるとして、シャーデンフロイデという原理で海外でも研究されてきた（スミス 2018）。これらは個人の性格に起因するものではなく、元来人間に備わっている心的な傾向であり誰もが陥りやすい。この心理現象は日本人の国民性に加え

て、SNS の普及によって加速されるのである。また、自身の中にある不協和から逃れる防衛反応として他者を叩くこともあることが明らかとなった(宮崎 2022)。

3 SNS 投稿における承認への渴望

叩く人の心理を述べた 2 章とは反対に、その叩ききっかけとなったもとの投稿をする側の心理、SNS における若者の承認欲求について説明していく。

SNS 投稿という行動の裏には、他者から受け入れられたいという心理的要因があり、特に若者はその傾向が強く SNS にのめり込みやすい(正木 2018、菅原 2004)。その要因として、価値観の多様化によって人生の羅針盤が消失した不安感から承認欲求が肥大化したこと、親子関係の良好化や衝突を避けた表面的な人間関係により承認の価値が薄れた結果、より多くの承認が求められるようになったことが挙げられる(土井 2014、宮崎 2022、若本 2021)。

また、若者は SNS の危険性を根拠なく楽観視していることが明らかとなった(若本 2021)。

4 SNS 投稿のリスク

これまでの章で述べてきたようなインターネットや人間の特性により、SNS での炎上が私刑やキャンセルカルチャーなど、行き過ぎた制裁やバッシングに繋がっている。それにより本人の意図とは関係なく投稿が拡散され注目を集め、その個人のプライバシーや個人情報に公になるリスクが生じている。

また、リスクがあるのは炎上を起こされた側だけでなく、誹謗中傷や拡散行為にも大きな法的リスクが伴う。誹謗中傷行為の法的措置は年々強化されており、民事的に訴えられる可能性がより高まることが明らかとなった。このように、SNS の投稿には、投稿主にもそれに反応する者もリスクがある。どちらも共通しているのは SNS の影響力を軽視していたことである。

結論

このように、SNS 炎上はインターネットの特性と、人間が生来的に持つ特性が複雑に絡みあって生じており、根本的に無くすことは容易ではない。注目を浴びたいがために過激な動画を投稿することや、気に食わないから相手を貶すコメントを投稿するなど、そのような少しの気の迷いで、その後の人生に関わる深刻な問題へと発展することがある。

現代の若者は多様化社会で自由になった弊害として、衝突を避け、承認を強く求めるようになった。それにより SNS トラブルへ発展する危険性が増加している。SNS 炎上は一部の愚かな人間による問題ではなく社会全体の問題として捉えなければならないと考える。そのためには、本稿で述べてきた SNS の特性を十分に理解すること、情報収集を怠らずに情報元をきちんと確認し、文脈を理解する努力をすることなど、ユーザーのメディアリテラシーを向上させることが必要不可欠である。

主要参考文献

- スミス, R, (2018), 『シャーデンフロイデ：人の不幸を喜ぶ私たちの闇』(澤田匡人訳)．勁草書房。
- 土井隆義, (2004), 『つながりを煽られる子どもたち：ネット依存といじめ問題を考える』．岩波書店。
- 中野信子, (2020), 『人は、なぜ他人を許せないのか?』．アスコム。
- 正木大貴, (2018), 「承認欲求についての心理学的考察：現代の若者と SNS との関連から」．『現代社会研究科論集：京都女子大学大学院現代社会研究科紀要』。
- 宮崎康史, (2020), 「若者の〈非一主体的な暴力〉に関する社会学的試論：存在証明パンデミックとしてのコロナ禍社会」．『社会と倫理』 第 37 号．p. 21-34. 南山大学社会倫理研究所
- 山口真一, (2020), 『正義を振りかざす「極端な人」の正体』．光文社。